

H27地域協働研究（地域提案型・前期）

RN-13「岩手の馬事文化の継承と馬事文化に係る資源の利活用に係る調査研究」

課題提案者：岩手県農林水産部競馬改革推進室

研究代表者：総合政策学部 倉原宗孝

研究チーム員：千葉義郎、佐藤学、高橋幸宏（競馬改革推進室）、村田忠之（県畜産課）、加藤俊男（盛岡市観光課）

<要 旨>

馬産地として知られる岩手県においては多様な馬事文化も存在する。著名なチャグチャグ馬コをはじめ馬事文化には文化・芸能・観光・教育等の多様な要素が含まれ貴重な存在である。しかしながら近年、その主役である馬の減少が著しく、各地の馬事文化の継承が難しくなっている現状がある。こうした中で本研究は、関係者からのヒヤリングや事例、各種データの収集を通じて、貴重な馬事文化の継承に向けた現状・課題・方策を考えていく。ここでは県内の情報のみならず馬に関連する各地の情報・事例も取り込んでいく。それらを踏まえて馬事文化の継承と共に、それと相互連動しながら県内各地の地域振興を促進していく方策も検討していく。

1 研究の概要（背景・目的等）

馬産地である本県において各地・分野で取り組まれる馬事文化は独自の貴重な存在と言える。しかしながら地域内で飼養される馬の減少などからその継承が難しくなっている。そこで本研究では、こうした貴重な馬事文化の継承に向けて、さらにそれと連動した各地の地域振興に向けて、県内外の各種情報の収集と分析を行っていく。

2 研究の内容（方法・経過等）

方法として、主要な活動・団体へ現地視察・ヒヤリングを行った。また各種データの収集・分析も行った。主な対象は、遠野馬の里、チャグチャグ馬コ保存会、馬搬関係者、三陸駒舎、滝沢市、洋野町、また農林省、岩手県、盛岡市などの各情報および出版物である。また県外の情報・事例にも知見を求めた。賀茂神社（滋賀県）、馬事博物館（岩沼市）、旧斗南藩（三沢市）、寒立馬放牧（下北半島）等である。これらを通じて、データ・情報の整理・分析を行うと共に研究メンバーを中心とした関係者間で今後の方策を検討した。

3 これまで得られた研究の成果

(1) 本県の馬産業、馬事文化の状況と考察

本県において馬を利用する代表的な祭事としてチャグチャグ馬コ（うまっこ）や久慈平岳参拝馬登坂行列があるが、いずれも参加する馬の確保に腐心している。また室根神社特別大祭マツリバ行事を参考にみると、同様に馬確保に課題があり保存会を結成するなどして対応されている。一関市室根支所によると、馬の調達などを依頼している馬喰の存在が大きいようだ。

これらの祭事はもともと愛馬の無病息災を祈って行われたものであるが、馬の飼養頭数が減少すれば行事に参加する馬数が減るのは当然のことかも知れない。そこで県内の馬の飼養頭数の変化などを各情報から整理・分析した。幾つかの分析があるが、その一つとして県内における農用馬の飼養戸数・頭数と耕耘機等の所有台数の推移を図1に示

してみる。昭和30年代に耕耘機等（図中、青線）が急速に普及した結果、それまで農耕に使われていた馬の頭数（同、赤線）が急速に減少していったことが伺える。馬から機械への転換という点（機能性・効率性）と共に、その背後にある産業スタイル・価値観（共生・文化）等にも目を向けた検討が必要かも知れない。飼養目的のうち使役目的が少なくなっていく中で、他の目的（子取り生産や肥育）へと転換していったものと推定される。

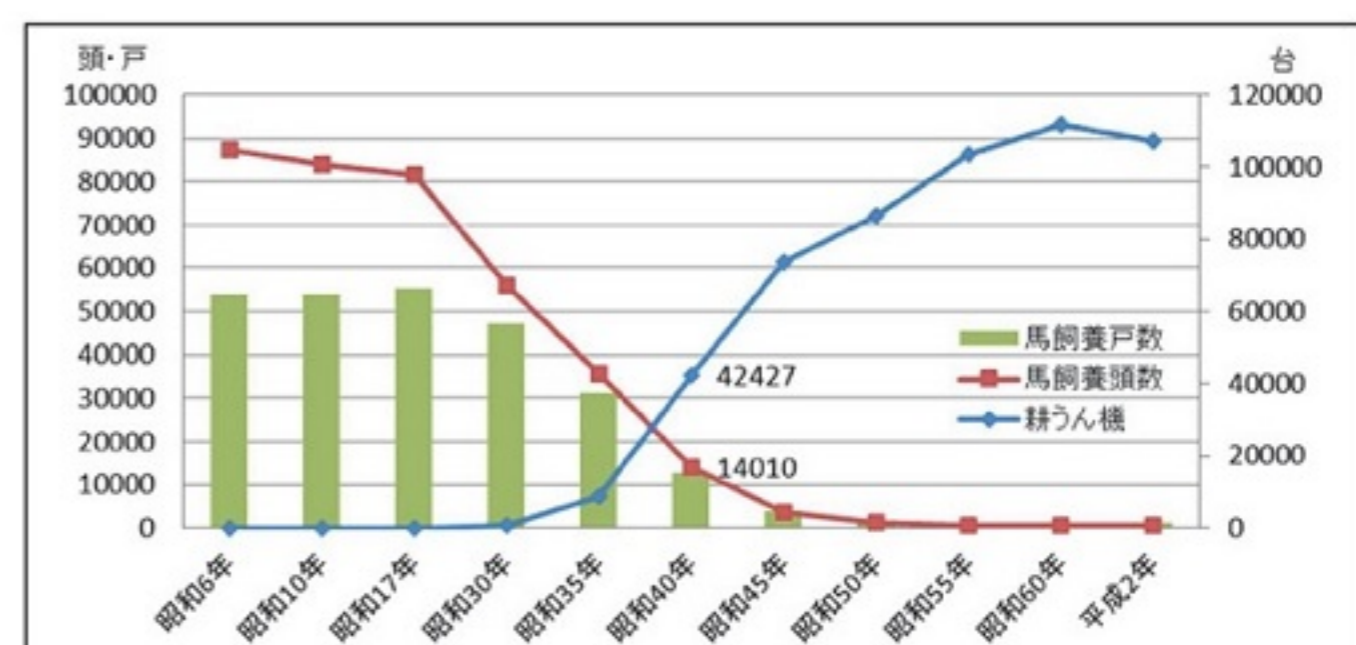


図1 岩手県内における農用馬の飼養戸数・頭数と耕耘機等の所有台数の推移（昭和6年～平成2年）

また馬事文化の性格の変化にも目を向ける必要もあろう。例えば図2に本県における農用馬の飼育頭数と装束馬出頭頭数の推移を示す。終戦直後は飼育頭数（図中、赤線）の減少に比例して装束馬（図中、青線）も減少しているが、昭和30年代に入ると、飼育頭数が減少を続けるのにも関わらず装束馬の出頭数は増加を続けている。観光主体の祭り行

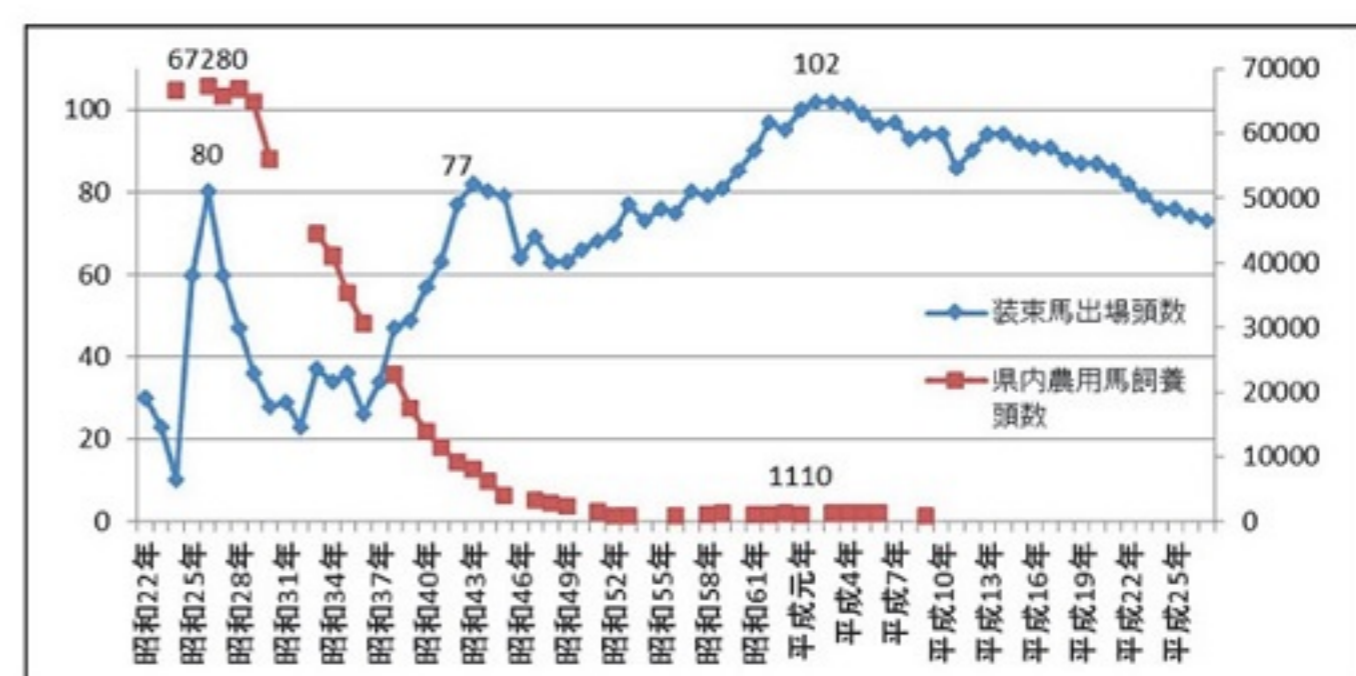


図2 岩手県内における農用馬の飼養頭数と装束馬出頭頭数の推移（昭和22年～平成7年）農林省統計表、盛岡市教育委員会報告書、等より作成

事となったことが伺え、そこには行政が主体となった保存会が出馬手当を拠出するなど奨励が背景にあったと思われる。

今回の調査過程で、馬は「経済動物」ではなくなったという意見も耳にした。産業構造が大きく変化した現在、馬の肥育に向けた今日的な意義や仕組みを創造していくことで馬数の確保と共に地域産業やライフスタイルへの提案・変革と連動させていくことも重要・有効ではないだろうか。

(2) 県内における新たな馬の活用の動き

そこで馬を活用した新しい動きが注目される。本県において従来の馬産業・馬事文化の延長上あるいは別分野から新たな動きも登場してきている。以下、幾つか紹介しておく。

例えば、馬ふん堆肥を活用したマッシュルーム栽培（企業組合八幡平地熱活用プロジェクト）は、地熱を利用して馬ふん堆肥を生産しマッシュルーム栽培に向かうなどユニークであるが、同時に乗馬や運搬等への利用価値があるとして馬の需要を増やすことも狙われている。また安比高原ふるさと倶楽部は、高原の貴重な財産である自然環境を次世代につなぐ保全・整備活動に馬の視点を活用している。あるいは岩間氏（遠野市在住）は馬搬の文化・技術の継承と共に木材のブランディングも狙うなど馬産業に付加価値を見出している。これらの取り組み主体の多くが若い世代、特に30歳代という点も注目されよう。その点では三陸駒舎（奈原氏）の活動も注目される。子ども達の情操教育などホースセラピーからの取り組みであるが、その中で馬と人と地域の関わりを描き出し現代的に再構築・創造しようとしている。馬の視点からみた古民家の再生や個人のライフヒストリーを描き出すなど過疎化・高齢社会にある今日的課題としても注目したい。



写真：三陸駒舎釜石市橋野地区の古民家を改修して馬を中心とした活動が模索・展開される。各種活動と共に、地域住民、県内外各世代交流の場が育ちつつあるのも注目される。

また研究グループの一人（倉原）が以前から地元関係者と共同で取り組んでいる旧玉山村・藪川にかつて存在した「外山御料牧場とその開拓の歴史」を探求する活動も注目され、牧場という点からも馬や各文化との関わりが深い。

こうした新たな興味深い動きが生まれており期待されるが、一方で馬に関連する各分野・主体間の連携を今後如何に促していくかも重要だと考える。調査を通じて馬に関する各組織・分野に一定の垣根があるように感じられるが、それらを緩やかに結ぶことは、こうした活動の可能性をより広げていくことに向かわせるのではないだろうか。

(3) 馬を巡る県外の様々な素材

ところで県内の状況・活動と同時に、県外の全国的な視野から馬・馬事文化を見つめることが、とりわけ情報・交通網が発達した今日において多様な効果を生み出していく上で必要・重要と考える。そこで本研究を通じて観察・収集してきた県外の事例・情報にも目を向けた。幾つか紹介しておく。近県で言えば、下北半島南部に存在した斗南藩

による日本初の民間洋式牧場の開設がある。これは先の外山御料牧場にも影響を与えていると思われる。幕末・維新の動乱期における会津藩（特に廣澤安任）の過酷な開拓の歴史があるが、その思想と実践のあり方、歴史、暮らしに、馬事文化・馬事産業としての視点から光を当てることも有効と考える。こうした斗南藩を中心とした牧場経営が下北半島北部まで点在していることも興味深い。また同じく下北半島東端部、尻屋崎での寒立馬の放牧も興味深い。伝統馬の養育・普及という点は勿論、一般道にも重なる放牧地帯では馬と近くで触れることが出来、景観・観光・教育などの意義・効果もある。



写真：斗南藩記念観光村・先人記念館維新後、凄惨を極めた旧会津藩・斗南藩であるが、下北半島移住後の取り組みには注目したい。特に西洋牧場経営への先見性は今日の馬産業へも大きな影響を与えている。



写真：下北半島尻屋崎の寒立馬在来馬の繁殖には多くの努力がなされているようだが、まさに絵になる風景である。立地する燈台と共に独自の景観を持ち、柵がない馬との関わりに観光としても面白い。

また滋賀県近江八幡市の賀茂神社は馬の神社として知られる。日本の馬の聖地として全国の馬関係者が信仰と共に集うようだ。神頼みというわけではないが、馬に関連する事項を全国的な視野で繋いでいくことも本県の馬事信仰・馬事産業としても有効だと考える。ちなみに現地視察時に神社の方とお話しした際に岩手県（滝沢市）から来たことに触れると、神主ご家族も滝沢出身とのことで毎年数回岩手に来るとのこと、こうした繋がりを活かしていくことも有効だろう。そのほか、馬事博物館（岩沼市）、馬の博物館（横浜市）など情報収集を行ってきたが、引き続き調査の輪を広げたい。



写真：賀茂神社およびその周辺風景。馬にちなんだ神社であり、関連する物品や馬上武芸の空間もある。資料によると日本で初めての国営放牧場であり、周辺環境が遠野市の風景に似ているといった感想が同行者から聞かれた。

4 今後の展開

紙幅の都合で今後の方策を簡単に記す。馬に関する各分野・各主体の連携の必要性・有効性がある。従来、各分野が一同に会する機会がなかったようだ。また馬を題材にしつつ福祉・教育・観光・商品など付加価値の可能性が大きい。そこには新しい世代・他地域との交流も必要・有効と思われる。引き続き各情報収集に加えて具体の実践活動に向かいたい。

<謝辞>

特に県内の馬事・馬産関係者の多くの方々に貴重な情報の提供含め大変お世話になった。深く感謝の意を示す。